

ヒヤリ・ハット事例

一般社団法人千葉県産業資源循環協会

外注作業その他

2023.10.31までの回答分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	場内ピット	パワーゲート車に積まれたフレコンをバックホウで下ろす作業中	バックホウの吊り紐を使って吊り上げ、ストックヤードに降ろした後旋回した際、吊り紐の先端がパワーゲート車のフック部分に引っかかってしまった。引き上げ前に気が付いたため事故にはならなかった。	吊り紐をバックホウのポケット側ではなく、フレコン側に付けるようにすることで、ポケットを動かす際に吊り紐が付いてない状態にする。			○		
2	場内	養生槽にて積み込み作業中	養生槽前のリガイアのベルトコンベアに接触しそうになった。	慌てず落ち着いて重操作を心掛ける。 一度止め深呼吸をする。	○				
3	場内	落ちた汚泥をバキュームで吸い上げて清掃をしていた時	汚泥の塊を吸った際、ホースが足に絡まり転びそうになった。	ホースの位置を確認しながら作業にあたる。			○		
4	場内	バキューム清掃時	吸い込みが強くバキュームのホースが暴れてしまい、危うく顔に当たりそうになった。	紐で固定するか、バキュームの圧を弱くして対応する。				○	
5	解体施設ステージ上	ダンプを駐車する際	ダンプをバックで駐車する時、立入禁止用のチェーンにぶつかりそうになった。 (直前でチェーンに気づいてぶつかる前に止まることが出来た。)	ダンプを駐車する時は、ミラーの目視確認、また必ず顔を出してバック走行をする。見えない時は降車して確認し、不安な場合は無理せず誘導をお願いする。	○		○		
6	首都高速道路上	走行中	車線変更をする際、後方を振り向いて確認したが、死角に車があり、ぶつかりそうになった。	まだ乗り始めたばかりの車でやっと運転に慣れてきたなと思っていたので、ミラー調整やあらかじめの状況確認など、過信せず運転していきたい。			○		
7	第2工場2号ガス冷スクリーCV点検時	日常点検	日常点検時にガス冷スプレーCVの点火をする際に、点検口を開けたら、熱ガスが噴き出てきた。	炉圧の変動等により、ガスが噴き出てくるということを常に想定し、点検口(他の場所も含む)を開ける際は真正面には絶対に立たない、また、どうしても点検口を開け、内部確認をする時には、保護具の着用を必ずする。			○		
8	第二工場	日常点検	日常点検時、1号炉内噴霧ノズルの噴霧状態のテストをした際、噴霧状態が悪く、配管のつまりを除去し、炉内へ戻したが、バルブを閉めたまま作業を終了してしまっていたところを他の課員に発見される。	噴霧テストを全て終了した後、もう一度外周を回って、忘れていないかしっかり目視で確認する。	○				
9	クリーンセンター内テント	パレット上に段積みされている廃棄物を台車に載せ替えをしている際	パレット上に高く積み上げられていた廃棄物(段ボール)がバランスを崩し、落下してきて頭上にぶつかりそうになった。	パレット上に積み上げる際は高く積まない。 載せ替えの作業をする際、崩れてくるのを想定して、すぐ回避出来る様にしておく。			○		
10	西浦処理場	搬入処理を終えて、帰社する時に	西浦処理場出口を右折する際、街路樹がある為、葉がたくさんある時は見えづらく、バイクがスピードを出していた為、接触の危険があった。	どこの交差点でも、見切りの悪い角等では、一時停止の徹底を図り、何度でも確認をして安全確保につとめる。		○	○		

収集運搬

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動 (本人)	不安全行動 (他人)	不安全 状況	不安全 設備	重機 作業
1	車両荷台(保冷庫)	収集作業中	雨の日に、廃棄物を車両に積み込んでいる際、車両荷台が濡れていたため滑りやすくなっており、転倒しそうになった。	安全靴はハイグリップの物を使用しているが、濡れた金属面にはあまり効果がないので細心の注意を払い作業する。			○		
2	国道	走行中	前を走行中の車両が右折する際に、横断歩道を渡ろうとしている歩行者に気付かず、急ブレーキを踏んだため、自車も急ブレーキを踏むこととなった。	車間距離の保持及び、かもしれない運転の徹底。		○			
3	成田空港制限区域内 第3サテライト付近	廃棄物運搬のため走行中	第3サテライト付近走行中、対向車のケータリングトラックの後方から、歩行者が自車の前方を無理に横断し、ヒヤリとした。	サテライト回り見通しが悪く、死角も多いので、走行時は歩行者に十分注意し、制限速度を守り走行する。		○	○		
4	船橋市咲が丘	交差点を直進しようとした時	対向車が右折しようとした時に衝突しそうになった。	十字路で道が狭い為、頻繁にそのような事例等を見掛けるので、看板等で注意を促す。			○		
5	船橋インター出入口信号	信号停車中	こちら側が青になり、出ようとした時、インター出口側から、他県ナンバーの車が出て来た。	自分の方の信号が青になっても、すぐには出ないで、イッテンボ待ってから出るようにする。		○			

中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動 (本人)	不安全行動 (他人)	不安全 状況	不安全 設備	重機 作業
1	2号炉焼却設備	通常作業	冷却水ノズルを点検したところ、噴霧水がクリンカに当たって排水管内に戻っており、ヒヤッとした。	長尺ノズルに変更した。				○	
2	2号炉施設	通常作業	廃液処理使用していた際、ノズル詰まりが有り、ヒヤッとした。	レギュレーターが古く、圧力が確認しづらい状況になっていたため、レギュレーターを交換した。				○	
3	2号炉焼却設備	通常作業	ノズルの根元付近が黒く液垂れしていた。	異常な状態に気付いたら、報告・連絡を行い、直ちに対応する。				○	
4	1号炉	通常作業	運転手がタイヤ止めを外し忘れ、車を動かし、タイヤ止め飛ばされ、ヒヤッとした。	車輛発進前に車輛のまわりを確認する。		○			
5	1号炉 コンベア付近	通常作業	コンベア点検口が開けっ放しになっており、転落の危険があり、ヒヤッとした。	作業後の確認を徹底する。		○			
6	2号炉焼却設備	通常作業	廃液配管の溶接部にしみがあり、ヒヤッとした。	工事施工後の確認をする。				○	
7	2号炉施設	コンテナ交換作業	コンテナ交換の為、フォークリフトを前進しようとした際、フォークリフトとコンテナの間を業者の方が通行して、ヒヤッとした。	走行前の周囲の確認する。 業者の方へ構内ルールの周知をする。		○			
8	2号炉受入施設	受入作業中	受入れホースを接続しようと車輛の受入口カムロックを取り外したら、中の残液が出てきて体にかかりそうになり、ヒヤッとした。	中から残液が出てくるかもしれないという想定をした行動をとる。			○		

中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
9	1号炉焼却施設	通常作業	ファンから異音と振動を確認し、音が大きくヒヤッとした。	各機器の不具合箇所の早期発見のために点検等をしっかり行う。				○	
10	減温ストレーナー	減温ストレーナーの上蓋のナットを工具で外している時	工具がナットから外れて、体勢が崩れそうになり(後ろへ)、ヒヤリとした。	工具を回す時、手で押さえながらゆっくりと回す。	○				
11	投入フロア通路	通路の扉を閉めている時	扉が強風にあおられ勢いよく閉まり、指を挟みそうになった。	強風時の扉の開閉には注意する。			○		
12	電対付近	電対交換	先に違う作業者がはずした熱を持った電対を、素手でさわってやけどしそうになった。	皮手着用、連絡、確認。	○	○			
13	投入機の中で	投入を待っている時	ゴミが燃え始めた。高温で押せない。プッシャー5.4.3.2.タイムアップ。	燃えやすいゴミは投入できる寸前に入れる。	○				
14	ショベルで	ショベルから降りる時	ショベルから降りる際に、つまづいて落ちそうになった。	前から降りずに、後ろ向きに降りる。	○				○
15	燃焼炉トラフ	スカムをかき出している時	燃焼炉コンベアが動き出した事に気付かずトンボをトラフ内に入れてしまった。	コンベアが止まった後等、コンベアが動かない事を確認してから作業を行う。	○				
16	場内(保管庫置場)	フォークにてコンテナ移動する時	雨が降りはじめ、外にあるコンテナを保管庫にフォークで並べてしまう時に、横の段差やコンテナに当たりそうになりヒヤリとした。	あせらない。運転操作の把握。	○				
17	保管庫	ショベルでゴミを運ぶ時	ゴミが少なく、擁壁側のゴミを持ち上げようとした時に、擁壁が少し動いてしまい、倒しそうになり、ヒヤリとした。	無理に擁壁側のゴミを運ばない。運ぶ時は、一旦ショベルから降りて、安全を確認してから運ぶ。	○				○
18	第三工場ごみピット前	松戸市のごみ解体作業	周囲の確認をせずに移動したため、走行していたフォークリフトを接触しそうになった。	周囲を確認して行動する。常にフォークリフトの位置を意識する。他の作業者と声をかけ合う。	○				
19	第1.3工場シャッター前	減却作業	フォークリフト走行中に進行先を作業者が横切る。荷降ろし中、運搬中のフォークリフトの旋回範囲に作業員が入る。	フォークリフトの進行方向、旋回範囲を意識する。乗車中のフォークリフトに近づく時は声をかける。フォークリフト運転者は安全確認・声かけをおこたらない。	○	○			
20	破砕機	破砕作業	シャフト回転中、破砕物を取り出そうとした時、停止するのを忘れてしまった。	破砕物をもう一度取り出そうとする時、危険防止のため、停止させる標示看板等を設置する。(安全ストップセンサー設置済み)	○				
21	場内荷降ろし場	積み荷を降ろしている時	重機で荷降ろしの際、誤って4トン車がバックし、重機と接触しそうになった。	通常は荷下ろしの際、運転手は運転席から降りてもらっているが、今回の事例は運転手さんが新人であったこと、車両の誘導が適切でなかった事が原因である。改善事項として、車両誘導の徹底及び重機オペレーターによる確認をする。	○	○			○